

知っているようで 知らないカラスの話

札幌カラス研究会代表

中村 眞樹子

1 カラスという鳥

カラスのイメージを聞くと「怖い」「襲ってくる」「ゴミを漁るから困る」という人がとても多い。どうしてなのだろうか？ 理由はいくつかあるけれど、私たちが生活して行くうえで情報を得る手段はテレビや新聞またはネットからという場合が多い。マスコミの報道がおおげさだったり、かたよったりして本当のことが伝わらない場合もある。よほどカラスに興味がない限り自分から勉強しようとか観察しようとは思わないのが普通だろう。でも知らないと対策も立てられないということだってある。カラスのことを一度見聞きしたからって理解出来るなんて到底思えない。このお話がもっとカラスのことを知りたいというきっかけになればよいと思っている。

札幌にはいったいどんなカラスがいるのだろうか？ 札幌にはおもに2種類のカラスが生息している。「ハシボソガラス(学名: *Corvus corone*)」と「ハシブトガラス(学名: *Corvus macrorhynchos*)」である。じつは「カラス」という名の鳥は存在しない。「カラス」という呼び名は「属名」である。属名とはなんていったら難しく感じるかもしれない。つまり、カラス全体の呼び名といった方が分かりやすいかもしれない。正確に呼ぶのなら、



写真1 ハシボソガラス

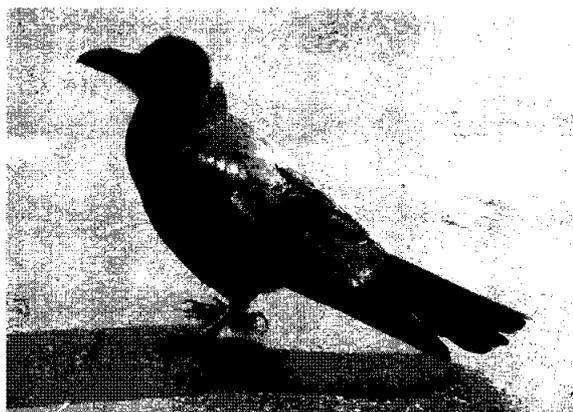


写真2 ハシブトガラス

「ハシボソガラス」・「ハシブトガラス」といわなければならないのだが、ここでは略して「ボソ」「ブト」と呼ぶことにする。

2 「ボソ」と「ブト」の違い

ボソとブトの違いと一言でいってもそう簡単には区別できないのが普通である。そもそも2種類いることさえ知られていないのが現状である。さて、では違いについて説明して

みよう。

表1にボソとブトの特徴を簡単に比較してみたが、これで区別できるようになるのは難しいので、あくまでも参考にしてもらえたら

表1 ハシボソガラスとハシブトガラスの簡単な見わけかた

ボソ (ハシボソガラス)	ブト (ハシブトガラス)
くちばしが細くて小ぶり	くちばしが太くて大きい
くちばしからおでこのラインがなだらか	くちばしからおでこのラインが出っ張っている 上嘴(上のくちばし)が盛り上がっている
おじぎをするように鳴く	体を上下に動かしながら鳴く
鳴き声はしわがれている	鳴き声は澄んでいる
歩いて採食することが多い	ピョンピョンと飛びはねることが多い

よいと思う。ボソでも大柄おおがらでくちばしが太目のカラスもいれば、ブトでもくちばしが小ぶりのカラスもいる。ブトのおでこの出っ張りは筋肉なのでペツパリとしているときもある。この状態だと、ボソだと思ってしまう人

も多いようである。ボソとブトでは見た目の違いだけではなく行動にも違いがある。行動の違いは文字ではなかなか表現出来ないのが残念である。ただし、2種ともに基本的な行動にはそんなに違いはない。

3 食べ物について

「カラスはゴミばかり食べている」と思っている人が多いのではないだろうか？ ゴミステーションのゴミを食べている姿を見せようと、まるでそれがカラスの食生活のすべてかのように思ってしまうのも無理はない。しかし、本当にカラスはゴミばかり食べて生きているのだろうか？ 答えは「大間違い」である。じゃ、普段カラスは何を食べているのかというと「木の実」「昆虫」「小動物や小鳥」である。基本的にカラスは何でも食べることができる「雑食性」である。もちろん好き嫌いもある。カラスもほかの野鳥と同じように季節によって食べる物が変わってくる。

ここで一つ伝えておきたいことがある。カラスが小鳥を食べることを「残酷だ」と思っている人も多いかもしれない。しかし、これは「食物連鎖」といって、野生動物が生きて行くうえで避けられない掟おきてである。食物連鎖のうえに立っているカラスはほかの小鳥を食べることによって生息数の調整になっている。これが崩れてしまったら、(一部の小鳥が異常に増えて?) 生態系自体が壊れてしまうだろう。カラスも「オオタカ」などの大型のワシ類に食べられているのをご存じだろうか？ カラスは無敵だと思っははいないだろうか？ ちょっと話が横道に反れてしまった……。

カラスは春から夏にかけては主に幼虫やほかの鳥を食べることが多い。幼虫はカラスに

とっては動物性蛋白質どうぶつせいたんぱくしつを得ることができる貴重な食糧源(エサ)である。また幼虫は子育てしているときには欠かせない。ヒナへ与える食べ物の多くが幼虫である。

晩夏ばんかから秋冬にかけてはおもに木の実を食べている。カラスが木の実を食べている姿を見たことがない人もいよう。人気のある木の実は「クワ」「イチイ」「クルミ」「ハリギリ」「ツタ」「ニガキ」「ナナカマド」などなどあげたらきりがなし(写真3、写真4)。カラ



写真3 クルミをくわえるハシボソガラス



写真4 ホオノキの実を食べるハシブトガラス

スが木に群がったりぶら下がったりして実を食べている姿はじつにほほえましい。ボソがクルミを道路に落として食べているようすも面白い。また松ぼっくりも大好物である。大きな松ぼっくりの奥にある種を上手に取り出せるのはブトの方である。ブトは大きいくちばしと力を使って上手に実だけを食えることができる。秋は木の実のほかに昆虫も食えることができる。秋は食べ物が一番豊富かもしれない。カラスが木の実を食べて、種を糞とともに排泄することによって植物たちは芽吹

くことができる。

たしかに、冬になるとエサ不足になり、ゴミに依存する機会も多くなっているのは間違いない。しかし、カラスは「貯食」といって食べ物を隠す習性がある。食べきれなかった物は隠しておいて後で食べるのである。食べ物をむだにしないという点ではカラスのほうが上手だといえるだろう。真冬になっても木の実が残っているし、我々が気づいていないだけで越冬している昆虫をちゃんと見つけて食べている。

4 身だしなみについて

「カラスの行水」という言葉を知っていますか。意味は「入浴時間が短いというたとえ」である。カラスの場合は入浴ではなく「水浴び」だ(写真5)。本当にカラスって水浴び時間が短いのだろうか？ 答えは「大間違い」だ。カラスが水浴びをする理由には2つが考えられる。一つは「体をきれいにすること」と「体温調整」である。体をきれいにするというのは人間と同じである。カラスの水浴びを観察していると、一度水浴びをしたあとには羽繕い(羽を整えること)をしたかと思うと、また水浴びをすることが多い。とくに夏になると、体温調節ということでは何度も繰り返したほうが効果的である。水浴びは年中行われていて、川にたくさんのカラスが集まって水浴びをしている姿はまるで「大浴場」のようである。水浴び後には体から湯気が出ていることがあるので機会があったら観察して欲しい。冬は水浴びと同じように「雪浴び」もやっている。雪浴びしている姿は雪で遊んでいるようにも見える。

カラスは水浴びのほかにも「蟻浴」や「日光浴」もやる。蟻浴とはアリの巣の上に座って自分の体の中を歩かせて、アリが出す「蟻酸」を体全体につけるのである。アリに触ると、アリは酸味のある匂いがする液体が出すのだが、これが「蟻酸」である。蟻酸を体につけると、寄生虫が寄ってこない効果があるといわれている。じっくり観察していると、

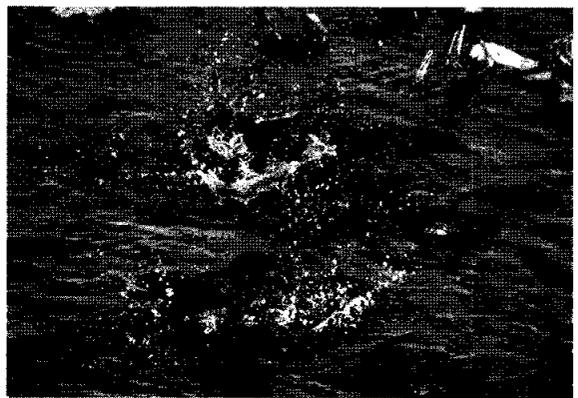


写真5 ハシブトガラスの水浴び



写真6 ハシボソガラスの日光浴

カラスはアリを食べてもいてまさに一石二鳥である。蟻浴は夏の晴れた日をもっとも観察しやすい。アリの活動期が終わると、蟻浴は見られなくなる。日光浴は砂場や芝生などの日のあたる場所で翼を広げて行う(写真6)。このときのカラスは目がとろんとしてくちばしを半開きにし、怪しげな顔つきになっている。

5 繁殖（子育て）について

カラスは3月下旬から巣造りをはじめ。巣造りはオスとメスが共同で行い、土台には太目の枝や針金のハンガーなどが使われる。中になればなるほど使う枝は細かくなっていく。「産座（卵を置く部分）」は犬の毛やシュロ縄など柔らかく保温性がよい物を使う。細かい部分や産座はオスが巣材を渡してメスを作る。メスは巣に入ってお腹のサイズを合わせるようにしてピッタリサイズに仕上げる。

巣が完成したら3個から6個の卵を産んで抱卵（卵を温める）を始める。抱卵はメスだけが行い（写真7）、オスは巣の周辺を見張りメスに食べ物を運ぶ。約20日間で卵からヒナが出てくる。孵化したばかりのヒナは丸裸で目も開いていない状態である。10日から2週間もすると、目が開き、体に黒い羽が生えてくる。巣立ちまでの約35日間は親に食べ物をもらって大きくなる。オスとメスが協力してヒナに食べ物を与える。水も食べ物といっしょに与えている。

ヒナはまだ自分でフンをすることができないので、親がお尻の部分的刺激して薄皮に包まれたフンを出させて巣の外に捨てる。巣の中が汚くなると寄生虫などが発生してしまい、ヒナの成長によくないのでつねに綺麗にしている。ヒナの巣立ちが近くなると、巣から食べ物をねだる声が聞こえてきて、羽ばたきをしている姿が見えてくるようになる。

鳥の巣立ちというと、巣から一気に大空へ飛び立つシーンを想像するのではないだろうか？ カラスの巣立ちも同じだと思うのが普通かもしれない。しかし、カラスの巣立ちは決



写真7 ハシボソガラスの巣。抱卵しているメス



写真8 巣立ちしたハシブトガラスのヒナ

して格好よく飛び立つのではなく、巣から隣の枝にちょこっと移動するくらいである。巣から移動してもしばらくは静かに過ごし、枝から枝へ移動しながら飛ぶ練習をはじめ。「ヒナは親より小さい」というイメージがあるようだが、ヒナが親より小さいのはおもにカモ類などである。カラスのヒナは親とあまり変わらない大きさで、尾羽が短くて羽のツヤもない（写真8）。巣立ったばかりのヒナの目はブルーで口の中は真っ赤である。この2つが親とヒナの区別には重要なポイントである。

6 人への攻撃について

カラスが嫌われる理由の一つに「襲ってくる」という人が多い。カラスは人が嫌いだから、攻撃してくるのだろうか？ 答えは「大間違い」である。カラスが人に攻撃をしているのは、「ヒナを守りたい」という親心からである。子育て中のカラスはとても神経質に

なっていて人にその気がなくても巣やヒナに近寄っただけで攻撃的になってしまうことがある。では、ボソとブトではどのくらい攻撃性が違うのかを表2に示したので参考にして欲しい。

表2に示したように、ボソとブトでは攻撃

表2 ハシボソガラスとハシブトガラスの攻撃性の比較

繁殖状況	ハシボソガラス	ハシブトガラス
造巢期*1	攻撃性なし	攻撃性なし
抱卵前期*2	攻撃性なし	攻撃性なし
抱卵後期	攻撃性なし	攻撃性なし
育雛前期*3	攻撃性なし	孵化直後に少し神経質になりじっと見つめると警戒鳴きをする場合がある
育雛後期	攻撃性なし	とくにヒナへの給餌後に神経質になる場合がある
巣立ち直前	少し鳴く	威嚇鳴きや低空飛行**4 をする場合がある
巣立ち直後～10日	少し鳴く	ヒナに近寄ると威嚇行動を取る場合がある
巣立ち後2週間～	攻撃性なし	人の行動を気にするが、威嚇などの行動はほとんど見られない

*1 ぞうそうき=巣を造っている期間

*2 ほうらんぜんき=卵を温めている期間の前半

*3 いくすうぜんき=巣の中でヒナを育てている期間の前半

*4 ていくうひこう=人の後から頭スレスレに飛んでくる

性の違いがはっきりとわかる。ボソの場合は、人を攻撃することはほとんどないと思っ
てまちがいはない。しかし、そんなおとなし
いボソでも人の方からつねに嫌がらせをされ
ていたら切れてしまうこともある。人間だっ
て何度も嫌なことをされたら切れてしまうこ
とがあるのだから、カラスも人間もその点は
同じである。

カラスに攻撃されたからといって石を投げ
つけたり、枝や棒を振り回して追い払おうと
したりするのは、かえって逆効果である。ま
た、巣の撤去はカラスに刺激を与え、人間に
対する不信感を高めるだけで効果はないとい
える。カラスは繁殖期であれば何度も巣を造
りなおすので、撤去すればするほど営巣期間
を長引かせることになる。また、安易な巣の
撤去は一時的な攻撃回避にしかならない。撤
去を繰り返す行くと、早い時期から攻撃を始
めてしまうようになる場合が多い。巣の撤去
はかつてに行くと、法律（鳥獣保護法）にふ
れる場合があるので注意が必要である。

カラスの記憶力の良さは十分に知られてい
るだろう。石や枝などでカラスを攻撃すると、
顔を覚えられてしまうので次からはその人が
現れただけで攻撃されてしまうようになる。
ここでさらにカラスに攻撃をくわえてしま
うと、カラスの攻撃は激化してしまいどうにも
ならなくなる。攻撃対象が決まった人物だけ
ならよいのだが、見た目が似ているような人

にまで攻撃してしまう。これは「人為的被害」
といえると思う。最初に攻撃をくわえた人物
がいなければ、関係ない人まで攻撃されるこ
とはなかったはずだから……。

では、カラスの攻撃を避ける方法はないの
か？という……じつはある。攻撃を「止め
させる」のではなく「避ける」方法である。
カラスに攻撃をされた人ならおわかりかと思
うが、カラスは後から足で蹴ってくる場合が
多い。カラスに近寄ってこられたら、「腕を
まっすぐに上げて動かさない」という方法で
ある。わかりやすく表現すると、横断歩道を
渡るときに腕を上げるのと同じポーズであ
る。効果がある理由としては、カラスが頭を
蹴るためには人に近寄らないとならない。し
かし、このときに腕があると翼がぶつかっ
てしまう。カラスに限らず、鳥は翼がとても
大切である。大切な翼を傷めるようなことは
避けようとする。したがって、腕の上を飛ぶ
しなくなるので蹴られなくてすむわけであ
る。指先に触れることはあるが、頭を蹴ら
れるよりはずっとマシだと思う。ただし、こ
こで大事なことは、絶対に腕を動かしては
いけないということだ。腕を動かすと、カ
ラス自身が「人に攻撃された」と思っ
てしまい、さらに攻撃性がひどくなっ
てしまうからである。腕を上げるのは最
終手段であり、その前にカラスの巣があ
るのがわかっていたり、騒いでいる声
が聞こえたりしたら、その場を避

けて通るほうが良い。カラスが神経質になる期間は巣立ち前後2週間ていどである。その期間だけでも優しい気持ちになって人のほう

で気づかいをしてもよいのではないだろうか？ カラスだって子供を守りたい一心なのだから……。

7 カラスの家とお宿

「カラスは巣に住んでいる」と思っている人が多いが、はたして本当だろうか？ 答えは「大間違い」である。巣は子育てのときだけに使い、その後は使わなくなる。「カラスがたくさん集まっていてこのまま住んでしまうのではないか？」と聞かれることがあるが、決してそんなことはないので安心して欲しい。カラスは一定の広さの「縄張り（人間生活に例えると、敷地）」を持っている。その縄張りの中に巣を造り、子育てをしている。巣自体は使わなくなっても縄張りは捨てることがないので、基本的にカラスがいなくなることはない。つまり、巣を撤去してもカラスはいなくなるのではないのである。

それと、カラスは集団で寝る習性があり、これを「塒」と呼ぶ。春から夏にかけての子育ての時期は自分の巣の周辺で寝るのだが、秋になると塒に行くようになる（写真9）。夕方になると一定方向へカラスが飛んで行く姿を見たことがあると思う。カラスが集団で塒を作る理由はいくつか考えられる。「天敵から身を守る」「番（結婚相手）相手を見つける」「情報交換」とある。どれも絶対とはいえないが、あるていどは当たっているかもしれない。カラスの塒になる条件として、「北西風などの



写真9 塒に集まったカラスたち

風が避けられる」「暖かい」ということが大きいだろう。ほかにもいろいろとあるのだろうけど本当のところはカラスに聞いてみないとわからない。

「カラスが真っ黒に集まるから不気味」だといって、騒音を立てたり、物を投げつけたりして追い出そうとしている人がいるが、やめたほうがよい。なぜなら、カラスを追い立てると一斉に大騒ぎをして大量のフンをまき散らすことになる。早く静かになってもらいたいのなら何もしないで、そうっとしておくのが一番である。そうすれば、暗くなると同時にまるでカラスなんていないみたいに静かになる。

8 カラスとともに

長々とカラスについてお話したのだが、これがすべてではない。これを読んで、カラスの大まかな習性を理解するきっかけになってもらえたら嬉しいかぎりである。カラスは野鳥である。「害鳥」といわれてしまうことが多いが、「害鳥」とは人間のつごうによって作り

出された言葉であって、このような分類が存在するわけではない。人とカラスの関係はこれからも続いていくに違いない。「カラスを色眼鏡で見ると人がいなくなってくれたらいいなあ」と思いながら、これからもカラスを見続けたいと思う。